

# 2021年度 体験活動プログラム 活動報告

体験型活動ワーキンググループ

2022年3月31日

## 目次

I	体験活動プログラム実施概要.....	1
II	体験活動プログラム活動報告.....	3
III	体験活動プログラム活動報告会.....	21
IV	付録	
	・体験活動プログラム概略.....	25

# I 体験活動プログラム実施概要

## ●概要

学部前期・後期課程の学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式又は価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを提供するものです。

2012年度に「体験活動に関するワーキンググループ」を設置し、2012年度には176名が活動に参加、さらに2013年度以降は研究室体験活動プログラムを加え、毎年多くの学部学生を様々な体験の場に送り出しています。

## ●2021年度体験活動プログラム実施データ

〈プログラムの件数および募集人数〉

○ 提供プログラム数：65件、活動実施プログラム数：46件、募集人数：534名

区分	プログラム提供件数	プログラム実施件数	募集人数
国内プログラム	40件 (62%)	27件 (59%)	304名 (57%)
海外プログラム	17件 (26%)	13件 (28%)	183名 (34%)
研究室プログラム	8件 (12%)	6件 (13%)	47名 (9%)
全プログラム	65件 (100%)	46件 (100%)	534名 (100%)

〈応募、参加状況〉

- 全プログラムでの募集人数534人に対し、応募者数は395名 (74%：募集人数比)、応募者のうち、参加者数は244名 (62%：応募者数比)。
- 国内プログラムは募集人数304名に対し、応募者数は274名 (90%：募集人数比)、応募者のうち、参加者は153名 (56%：応募者数比)。
- 海外プログラムは募集人数183名に対し、応募者数は95名 (52%：募集人数比)、応募者のうち、参加者は76名 (80%：応募者数比)。
- 研究室プログラムは募集人数47名に対し、応募者数は26名 (55%：募集人数比)、応募者のうち、参加者は15名 (58%：応募者数比)。

区分	募集人数	応募者	参加者	不採択者
国内プログラム	304名	274名 〈90%〉	153名 《56%》	121名 《44%》
海外プログラム	183名	95名 〈52%〉	76名 《80%》	19名 《20%》
研究室プログラム	47名	26名 〈55%〉	15名 《58%》	11名 《42%》
全プログラム	534名	395名 〈74%〉	244名 《62%》	151名 《38%》

〈 〉内は募集人数との比率、《 》内は応募者数との比率

なお、プログラムに応募し、不採択となった者が別のプログラムに応募しているため、応募者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、応募者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

〈採択者の属性〉

◆男女別内訳

○ 参加者244名の男女別内訳は、男子学生が129名（53%）、女子学生が115名（47%）。

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	129名 (53%)	115名 (47%)	244名 (100%)

◆学年別内訳

○ 参加者244名のうち、学部前期課程学生は122名（50%）、学部後期課程学生は122名（50%）。

○ 参加者244名の学年別内訳は、1年生68名（28%）、2年生54名（22%）、3年生77名（32%）、4年生43名（18%）、5年生1名（0%）、6年生1名（0%）。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	男子	女子
法			13	7			20	12	8
医			3	3	1	1	8	2	6
工			19	4			23	17	6
文			10	6			16	12	4
理			1	1			2	1	1
農			5	1			6	4	2
経済			11	10			21	18	3
教養	68	54	11	7			140	59	81
教育			2	2			4	2	2
薬			2	2			4	2	2
計	68	54	77	43	1	1	244	129	115

教養学部欄の「1年」、「2年」の欄は、前期課程の学生を示す。

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1年	12	10	10	17	13	6	68
（国内）	5	2	7	11	6	1	32
（海外）	5	8	3	5	5	4	30
（研究室）	2	0	0	1	2	1	6
2年	6	8	21	8	10	1	54
（国内）	3	7	16	5	6	0	37
（海外）	3	1	5	3	2	0	14
（研究室）	0	0	0	0	2	1	3
計	18	18	31	25	23	7	122

## Ⅱ 体験活動プログラム活動報告

国内プログラム名称	ページ数
A1 療育を知ろう	5
A2 地域包括ケア体験プログラム	5
A3 東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ	5
A4 TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動	6
A5 環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト	6
A6 高校魅力化プロジェクト～超人気減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域で学習支援と課題発見・解決～	6
A8 日本語教室でのボランティア	7
A9 自ら考える地域活性化策を実践する旅～富山県魚津市～	7
A10 増やそう地域を愛する人！地域資源情報発信事業協働体験	7
A12 農家に泊まろう！～農林業のフロンティア・みなかみで一次産業の可能性を考える～	8
A13 JICAの国内の現場で国際協力を知る	8
A14 誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつづけない旅行プラン@KYOTO～	8
A15 「好き」だけで終わらせない！～自らの手でファッションの未来を創ろう～	9
A17 農作物を自由自在に～植物工場で次世代の食糧生産を考える～	9
A18 再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン	9
A20 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学	10
A22 おじゃり申せ種子島！ 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム（冬編）	10
A25 伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く	10
A27 ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」で水環境と生態系保全の未来を考える	11
A28 森のひとになろうー森と暮らす仕事	11
A29 森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー	11
A30 伊豆の体験活動ー南伊豆というー地域との連携に学ぶー	12
A31 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験	12
A35 中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト	12
A36 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験～世界の水文研究を支える90年を全身で感じよう～	13
A38 日本の伝統文化である花火について知り、花火について考える	13
A39 中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう	13
海外プログラム名称	ページ数
B1 中国訪問＋キャンパスツアーと学生交流	14
B3 シンガポールでビジネスを学んでみよう	14
B5 スリランカでSDGsフィールドワーク体験“SDGs Field work experience in Sri Lanka”	14
B6 TOPS2021（Tokyo Oxford Programme of Summer 2021）	15
B7 英国ロンドン、海外で働くとは	15
B9 スウェーデン王立工科大学（KTH）での体験活動 日本語授業サポートと企業訪問	15
B10 サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動	16
B11 アラブ首長国連邦の「いま」	16
B13 GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT	16
B14 アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう	17
B16 米国ニューヨーク・ソルトレイクシティ近郊における国際交流・研究体験活動	17
B17 グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方	17
B18 日系カナダ人のアイデンティティーと文化を探る	18

## 研究室プログラム名称

ページ数

C3	農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定	19
C4	脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い	19
C5	生命科学分野の研究領域の可視化ツール入門	19
C6	環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ	20
C7	みんなで翻刻ソン	20
C8	DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan) 2021 夏季プログラム	20

## 【国内プログラム】

### A1. 療育を知ろう

施設で行っている支援のほぼ全てを見学し、随所にちりばめられた工夫を知り、療育について学んだ。発達障害のお子さんとそのご家族への診察を見学しながら、教育や家族のことについても考えさせられた。障害のある方々に対して今までも偏見を持ってきたつもりはないけれど、他の人と何も変わらない、同じようにいろいろなことを感じ、悩み、一生懸命生きているのだということを改めて実感した。医学部では発達障害のことまで丁寧に学びきれないということを知り、将来医師として働くうえで今回の経験は強みになると確信した。

日 程：2022/3/8(火)-3/18(金)

参加学生：1名

活動場所：島田療育センターはちおうじ

備 考：島田療育センターはちおうじ <https://www.shimada-ryoiku.or.jp/shima8/>

### A2. 地域包括ケア体験プログラム

柏市における地域包括ケア及びその関連事業（社会福祉協議会、地域子育て関連事業、厚生労働省等）の関係者の方々と意見交換を行い、地域包括ケア事業が、在宅医療だけでなく介護予防や社会参加の促進等様々な分野を扱い、その各分野において非常に多くの職種・立場の方々が連携し活動している、裾野の広いプロジェクトであることを実感した。地域での人々の関わりやシステムの実現を知り、地域独自の工夫や取り組みまで知ることができた。地域の人との関わりや機関の人と顔見知りになり、繋がることを最も大切にされていることが印象的だった。

日 程：2021年8月-2022年3月

参加学生：3名

活動場所：オンライン

備 考：柏市ホームページ 長寿社会に向けたまちづくり～地域包括ケアシステムの具現化に向けて～

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/060200/p011002.html>

東京大学 高齢社会総合研究機構 <http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/>

### A3. 東大病院入院中の難病の子どもを支援する

#### ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ

ドナルド・マクドナルド・ハウスは多くの活動をボランティアが担っており、そのボランティアの一員として日々のハウスキーピング活動に参加し、チャリティランや、外部企業の社会人スポーツ大会などでの募金活動に参加した。アメリカ発祥のマクドナルドハウスという文化と、日本のボランティア文化との両方を感じることができた。お子さんの長期入院の大変さは、今まで全く意識したことがなかったため、大変勉強になった。自分が知らない事情で大変な思いをしている人がいるのだということを知り、再確認することができた。

日 程：2021/10月-2022/2月

参加学生：4名

活動場所：本郷キャンパス 医学部附属病院隣接の東大ハウス

備 考：公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

<http://www.dmhcj.or.jp>

## A4. TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動

すでに活動されていたTSCP学生委員会の方々と協力し活動を行うことで、大学におけるエネルギー関連の課題やTSCP学生委員会の組織としての性質に関する問題提起を行った。学内で行われたSDGsに関する意識調査のデータをもとに、それぞれの属性を持つ学生がSHUT the SASHに関してどの程度取り組んでいるか、傾向があるかなどについて調べ、どのような新規的なアプローチができるか模索し検討した。大学側と学生とのやりとりがあるなか、学生も行動の主体となり大学を変えていく過程に加わっていることが実感できた。

日 程：2021/8月-2022/2月

参加学生：1名

活動場所：本部棟9階施設部 他

備 考：TSCP(東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト) <http://www.tscp.u-tokyo.ac.jp/>  
TSCP学生委員会 (UTokyo Sustainability) <https://utsustainability.wixsite.com/utsustainability>  
TSCP学生委員会 (UTokyo Sustainability) Facebook <https://www.facebook.com/tscpgakusei/>

## A5. 環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト

神奈川県横浜市の山下公園において、環境DNAを測定するための水サンプルの採取と、ろ過作業を行った。環境DNAの測定は水に含まれる微量なDNAを培養するため、手の皮脂のコンタミネーション等を最大限防ぐ必要があり、サンプルの取り扱い方法を学ぶことができた。山下公園を調査場所にしたことで、都市部の環境について理解を深めるきっかけとなった。

日 程：2021/8/28(土)

参加学生：1名

活動場所：神奈川県横浜市

備 考：<https://www.earthwatch.jp/>  
[https://www.earthwatch.jp/pj\\_domestic/detail/detail\\_edna.html](https://www.earthwatch.jp/pj_domestic/detail/detail_edna.html)  
<http://www.earthwatch.jp/index.html>  
[http://www.earthwatch.jp/about\\_us/images/ewj\\_2020report\\_web.pdf](http://www.earthwatch.jp/about_us/images/ewj_2020report_web.pdf)

## A6. 高校魅力化プロジェクト～超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域で学習支援と課題発見・解決～

島根県の離島と栃木県、広島県の公立塾で離島中山間地域における学力格差の解決を目的に勉強計画へのアドバイスや試験対策支援、感染まん延時期にはオンラインでの推薦入試の面接練習などを行った。学習支援以外では生徒と交流するために座談会を立案し実施した。地域の診療所や特別支援の運営担当者からは福祉について、町おこし事業に携わっている方々からは工夫を凝らした活動の様子を伺い、地域活性化の難しさと同時に今後の可能性について理解を深め、教育と福祉との両方の見識を広めることが改善につながるのではないかと感じた。

日 程：2022/2月-3月、3週間以上

参加学生：2名

活動場所：島根県隠岐郡海士町

備 考：株式会社 Prima Pinguino HP (高校魅力化プロジェクト支援)  
<http://pripin.co.jp/>  
高校魅力化プロジェクトHP <http://miriyokuka.com>



テスト勉強のスケジュールを立てる



主催イベント「歴史について考えよう」

## A8. 日本語教室でのボランティア

オンラインで行われた工学系日本語教室の授業にTAとして参加した。授業では、留学生とペアを組み、教科書に基づいた会話をロールプレイで学び、留学生ペアを見守りながら指導することもあった。留学生が取り組む「日本人との会話を3分間録音/録画する」といった課題の練習相手をしたり、中間、期末試験前には復習を手伝ったり、日本で就職することを目指す留学生に日本の就職活動のノウハウを伝える授業もあった。他国の文化や風習をその国の人の口から直接知ることは大変興味深かった。

日 程：2021/10月-2022/1月

参加学生：11名

活動場所：オンライン

備 考：工学系研究科日本語教育部門 <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

## A9. 自ら考える地域活性化策を実践する旅～富山県魚津市～

地元の高校生、メンターの方も交えて魚津市の抱える人口減少や少子高齢化に対する課題解決に取り組んだ。対面とオンラインを併用して、市内の各分野で活躍する方々にインタビューを行い、地元の良さや課題を探りながら、活性化に向けた提案をまとめた。プログラム最終日には地域活性化策発表会を行い、農作業を疑似体験できるゲームの開発や小中高生の祭りへの参加促進などプレゼンテーション形式で発表した。あらゆる方面からの意見を聞くことで、視野を広げることができた。

日 程：2021/7月-10月

参加学生：12名

活動場所：富山県魚津市

備 考：魚津市役所HP <https://www.city.uozu.toyama.jp/>

魚津市定住応援サイト <https://uozu-sumitai.jp/>



蟹気楼 展望の丘



地域活性化策発表会

## A10. 増やそう地域を愛する人！地域資源情報発信事業協働体験

三浦市は、将来的に地域資源などに関する情報をワンストップで提供することで、関係人口の増加・他都市との競争力強化を目指している。三浦市に関するいろいろな分野にわたる情報を網羅的に集め、その情報をもとに三浦市の活性化のトリガーとなりうる人にインタビューを行い、どうすれば関係人口やシビック・プライドは高まるかに関する仮説を立て、三浦市市民部市民協働課や三浦市民交流センターニナイテの方々と建設的な議論を行った。

日 程：2021/8月、9月の平日5日間

参加学生：2名

活動場所：オンライン

備 考：地域の支え合い仕組みづくり事業 <https://www.miuracc.org/sasaeai/>

ニナイテカレッジ <https://www.miuracc.org/ninaitecollage/>

三浦市ホームページ <http://www.city.miura.kanagawa.jp/kyoudo/centeropen.html>

三浦市民交流センター <https://www.miracc.org>

三浦市民交流センターtwitter @MiuraccNinaite



## A12. 農家に泊まろう！～農林業のフロンティア・みなかみで一次産業の可能性を考える～

グリーンツーリズムをはじめとした六次産業化の最先端であるみなかみ町の最新の取り組みを学び、農家経営者や地域住民との交流、現場体験を通して六次産業化の可能性と課題を知ることで、日本の農林業や地域活性のあり方について自分なりのビジョンやアクションを描くためのヒントを得ることができた。今までの人生で経験したことのない量の雪に囲まれた生活で、雪の中を家まで掻き分けて進んだり、屋根からの落雪の衝撃に驚いたり、雪国での生活ならではの出来事が新鮮だった。

日 程：2022/2/12(土)-2/23(水)

参加学生：5名

活動場所：群馬県利根郡みなかみ町

備 考：一般社団法人みなかみ町体験旅行 <http://www.m-tr.jp>

群馬県みなかみ町藤原の移住支援ポータルサイト <http://play-fujiwara.net/>

三四郎会Facebookページ <http://www.facebook.com/todaisanshiro>

## A13. JICAの国内の現場で国際協力を知る

国内支部として日本と支援国とを結ぶ役割としての事業を担っているJICA東京センターにおいて、国内で行われている国際協力の現場に立ち会うことができた。海外の研修生へのオンライン建築防災研修を見学し、国内にいる研修生や留学生への日本の慣習や観光地などを周知するオンラインイベントに参加した。国内の現職教員へ行われた国際協力研修のアシスタントを務め、参加教員が立案した国際協力に関する授業案に対して学生の立場から意見や代案を伝える機会に恵まれた。国際協力の現場で働く明確なイメージを持つことができた。

日 程：2021/9/2(木)-9/7(火)

参加学生：3名

活動場所：JICA東京センター（渋谷区西原）

備 考：JICA東京 <https://www.jica.go.jp/tokyo/>

東京大学三四郎会 <http://www.facebook.com/todaisanshiro>

## A14. 誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつけない旅行プラン@KYOTO～

与謝野町の方々にオンラインで与謝野町とはどういう町か、まちづくりに関する取り組み、観光の振興についてお話を伺った。その中で得られた知識や与謝野町の皆さんの考えをもとに観光プランを学生一人ひとりが考え、最終日に観光プランやビジネスモデルをプレゼンテーションし意見交換を行った。自分でアポイントを取りインタビューする経験を通し、社会との関りを実感した。

日 程：2021/8/23(月)-8/28(土)

参加学生：3名

活動場所：オンライン

備 考：一般社団法人PLACE 京都Xキャンプ@与謝野

Twitter：@KyotoXcamp

Instagram：kyotoxcamp

Facebook： <https://www.facebook.com/kyoto.machil234/>

三四郎会Facebookページ <http://www.facebook.com/todaisanshiro>

## A15. 「好き」だけで終わらせない！～自らの手でファッションの未来を創ろう～

前半は講義形式でオンワード樫山の様々な部署の方々からお話を伺った。後半はグループワーク形式でオンワード樫山の強みを活かした「新規事業」の提案を行い、普段は見ることのできないアパレル業界の裏側を見ることができた。実際の企画立案から、どう具体的に一着の服が形作られていくのか、そしてどのように販売されていくのか、という点を知ることができた。プログラムの参加により、社会や経済に対する視点が広がり、社会へのアンテナを張る大変良い機会になった。

日 程：2021/9/6(月)-9/10(金)

参加学生：3名

活動場所：オンライン

備 考：株式会社 オンワード樫山 <https://www.onward.co.jp/>  
三四郎会Facebookページ <http://www.facebook.com/todaisanshiro>

## A17. 農作物を自由自在に～植物工場で次世代の食糧生産を考える～

植物工場の現状や問題点、将来像などのお話を伺い、植物工場が今後どのように私たちの生活に入り込んでくるか、ということについて参加者それぞれが自分の意見をまとめて発表した。実際に先進的な植物工場技術を現地を見て、生産性向上につながる取り組みを専門としている方からお話を伺うことで、人口植物栽培への理解と興味を深めた。

日 程：2021/7/28(水)、8/11(水)、8/19(木)、9/16(木)、9/17(金)

参加学生：2名

活動場所：植物工場研究会（千葉大学環境健康フィールド科学センター）  
東京大学生態調和農学機構（附属田無演習林）  
株式会社プランテックス（東京都墨田区）

備 考：東京大学生態調和農学機構河鰭研究室 <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/kawabata-lab/>  
NPO法人 植物工場研究会 <http://npoplantfactory.org/index.html>  
プランテックスHP <http://www.plantx.co.jp>  
プランテックスの植物工場の動画 <https://www.youtube.com/watch?v=vJB07Kir8RI>

## A18. 再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン

持続可能な社会の構築に向けて、再生可能エネルギーを用いた事業などを幅広く行っているベンチャー企業でのインターンを通し、ビジネスや制度の動向について調査・発表を行い、自分たちの調べた情報が実際にビジネスのもとになるという実感が得られた。また、宮城県内の農業と再生可能エネルギーを両立するソーラーシェアリング発電所を見学したほか、宮城県石巻市では、リサイクル会社や太陽光発電会社などを経営する方から震災の話をお伺った。数十年単位で地域や日本の未来をリアルに想像し、それに基づいて動くことを学んだ。

日 程：2022/2/14(月)-2/25(金)

参加学生：5名

活動場所：東京都内、宮城県内

備 考：サステナジー株式会社 <http://sustainergy.co.jp/>



集合写真



発電所見学

## A20. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学

東京大学の「知」と吉本興業の「エンターテインメント」を掛け合わせた「笑う東大、学ぶ吉本プロジェクト」の一環として実施された4つの企画の一つ「吉本興業のお笑いコンテンツを世界各国でローカライズ」に参加し、「どうやったら日本のお笑いを海外に“輸出”できるのか」について、施策提案を行った。

全5回のワークショップが開催され、海外事業の概況にとどまらず、お笑い芸人の方々から海外展開に至る試行錯誤の過程、実体験に基づく文化・宗教的側面の配慮、「翻訳」に関する注意点等のレクチャーが行われた。最終日に吉本興業新宿本社にて成果発表会を行い、発表を聞いた東大教員や企業関係者から学生へ多くの意見や感想、アドバイスなどが寄せられた。

日程：2021/8月-11月  
参加学生：41名  
活動場所：東京都内



ワークショップ



成果発表会

## A22. おじゃり申せ種子島！ 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム（冬編）

種子島で3月に行われるシンポジウムに向け、当日発表する予定の種子島高校の高校生たちのチームのメンバーを行った。シンポジウム当日は、現地の高校生と会える予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により現地への訪問が残念ながら叶わず、結果オンライン上だけだったが、種子島の高校生と実際に交流し、現地の生徒が自分自身の将来についてどのように考え、種子島とどのように関わっていこうと考えているかがわかり、新たな気づきを得た。

日程：2022/1月-3月  
参加学生：8名  
活動場所：オンライン  
備考：種子島観光協会ホームページ <http://tanekan.jp>  
西之表市役所ホームページ <http://www.city.nishinoomote.lg.jp>

## A25. 伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く

始めに刀剣の製作工程を学び、「炭」がその過程でどのように使われるかを学んだあと、保存会の方々に指導を受け実際に炭焼きを行った。乾燥させたほおきを窯に並べ、薪を割り火入れ作業を行った。休憩時間には炭についてだけでなく林業の抱えている問題点などをお聞きすることができた。刀剣作りをするのに必要な炭の不足に危機感を抱き、苗木から育て炭を焼くという保存会の方々のチャレンジ精神と数十年先の山の環境を考えるというスケールの大きい発想と行動力に感銘を受け、生活と山の管理が密接につながっていることを実感することができた。

日程：2022/3/13(日)-3/16(水)  
参加学生：5名  
活動場所：岡山県 瀬戸内市・鏡野町  
備考：伝統工芸木炭生産技術保存会 <https://www.mokutanworks.com/>  
笑楽窯 <https://www3.hp-ez.com/hp/sumikama>



薪割り



富西谷の窯

## A27. ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」で 水環境と生態系保全の未来を考える

本来であれば夏に現地で5日間ほど滞在する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、12月に現地で1泊で活動を行い、1月にオンラインで講座を受け意見交換を行った。現地活動では、宍道湖で鋤簾という道具を使ってシジミを取り、伝統的な柴漬け漁という仕掛けにかかった魚を取る作業や、シジミの選別作業、宍道湖の食体験と盛りだくさんの体験ができた。オンラインでは、実際に環境保全活動に携わっている方から宍道湖・中海における白鳥の歴史や保護活動、宍道湖のシジミや鳥など生態系保全の重要性についてお話を伺い、地域を守る仕事はとても魅力的に感じた。

日 程：2021/12月-2022/1月

参加学生：4名

活動場所：島根県+オンライン

備 考：圏域市長会 <https://www.nakaumi.jp>  
宍道湖漁業協同組合 <http://shinjiko.jp>  
有限会社日本シジミ研究所 <http://sijimi-lab.jp>  
認定NPO法人自然再生センター <https://www.sizen-saisei.org/>  
島根大学エスチュアリー研究センター  
<https://www.srec.shiman-u.ac.jp/>  
松江市 <http://www.city.matsue.shimane.jp>  
宍道湖保全再生協議会研究概要報告書  
[https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/suisan/shinkou/gyosei\\_info/shinzikohozensaiseikyougikai/houkokusyo.html](https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/suisan/shinkou/gyosei_info/shinzikohozensaiseikyougikai/houkokusyo.html)  
中海自然再生協議会 <https://www.nakaumi-saisei.org/>



シジミ漁

## A28. 森のひとになろうー森と暮らす仕事

新型コロナウイルス感染症の影響で冬の現地活動のみだったが、予想していた以上に活動の密度が濃く、特に料理を通じて「森の恵みとしての癒し」を実感することができた。落ち葉焚きは森林の景観を保つ重要な意義を伴っており、保全上やむを得ず切り落とす枝だけを用いて美味しい料理や暖房が成り立っていること、自分達が喜びを感じながら楽しみ行う一つひとつの活動が、森の保全にどのように役立っているのかを学んだ。自然保護に付きまとう堅苦しきやある種の真面目さを越えたところに、現代における人間と森林の関わり方に対するヒントを得ることができ、示唆に富んでいた。

日 程：2021/12/18(土)-12/19(日)

参加学生：4名

活動場所：附属演習林富士癒しの森研究所（山梨県南都留郡山中湖村）

備 考：富士癒しの森研究所のホームページ

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/fuji/>



落ち葉焚き

## A29. 森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー

北海道演習林にて、森林の管理を現場で実際に行っている技術職員に同行し、造材現場の見学や、蓄積調査、伐採監護を体験した。コンパスとレーザーを用いて調査区画の設定および樹種のカウント作業を行い、事務所では内業（データ管理・マップ作成作業）について学んだ。スノーシューを履いて山道を歩いたり、スノーモービルに乗ったり、森でエゾシカやオオワシの観察を行ったり、冬の北海道ならではの体験がすべて新鮮でフィールドワークの大切さを学ぶことができた。

日 程：2022/2/14(月)-2/24(木)

参加学生：3名

活動場所：東京大学附属演習林北海道演習林

備 考：北海道演習林 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/>



森林を区別するための測量をおこなっている様子



スノーモービル体験

### A30. 伊豆の体験活動－南伊豆という一地域との連携に学ぶ－

「林業と向き合う」をテーマに、薪割りや鯉節工場に納品するまでの体験、椎茸の杭打ちと収穫も行った。また、「獣害と向き合いソーセージを作る」というテーマの下、猪肉をミンチにして肉詰めし、ソーセージに加工して実食した。猪を仕留める罠作りも体験し、実際に罠にかかっている様子を見学する機会もあった。普段目にする事のない生死の境を目の当たりにし、更に食べられる形に加工して実食するという体験から、単に「獣害」について机上で学ぶ以上の実感と衝撃を受けた。実際に現地に足を運び、自らの手で体験し、活動を通して地元の方と交流することで新たな気づきを得ることができた。

日 程：2022/2/18(金)-2/21(月)、3/4(金)-3/7(月)

参加学生：6名

活動場所：静岡県南伊豆町近郊

備考：東京大学樹芸研究所 <https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/>



薪割り



ソーセージ作り

### A31. 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験

はじめに、教授から北海道先史の特徴や周辺の遺跡についての講義を受け、ところ遺跡の館や常呂資料陳列館に関連する土器などを見学したあと、参加者で分担をし展示の模擬解説を行なった。また、ガラス乾板の写真を良い状態で保存するための整理と先史の副葬品であり、本州との交流示すとされる勾玉を制作した。北海道立北方民族博物館、網走市立郷土博物館、モヨロ貝塚館を見学した。博物館網走監獄では明治時代に開拓の労働力として北海道に移送された囚人についてや設立から現在まで網走監獄が求められている役割の変遷について学んだ。

日 程：2022/2/14(月)-2/17(木)

参加学生：5名

活動場所：大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設、北見市ところ遺跡の森（北海道北見市常呂町栄浦）

備考：常呂実習施設 <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html>  
北見市「ところ遺跡の森」 <http://www.city.kitami.lg.jp/docs/7209/>



先生方と参加学生



復元竪穴住居

### A35. 中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト

島根県益田市は、中世の時代に大きく繁栄し、当時の史跡や古文書等がままとまって残る全国でも稀有な地域と言われている。また、「ひとづくり」「まちづくり」施策にも力を入れており、交流人口・関係人口の増加に一定の成果を上げている益田市に4日間滞在し、フィールドワークを行った。様々な方からお話を伺い、若者向けにひとづくりを活かした観光プログラムや、益田市の知名度向上につながるようなアイデアを提案した。またぜひ益田を訪れて、その際は益田市の方々のお話を聞くだけでなく、私が何かを語れるようになってほしいという新たな展望も持つことができた。

日 程：2022/3/8(火)-3/11(金)

参加学生：2名

活動場所：島根県益田市

備考：益田市ホームページ「文化・歴史・観光」  
<https://www.city.masuda.lg.jp/site/kanko/>  
益田市ホームページ「歴史文化研究センター」  
<https://www.city.masuda.lg.jp/soshiki/182/>  
一般社団法人益田市観光協会ホームページ <https://masudashi.com/>



益田市市長と

### A36. 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える90年を全身で感じよう～

生態水文学研究所の赤津研究林で長期に渡り行われている水文気象観測業務を体験した。砂出しの体積測定で箱尺とレベルを使う測定では、ドローンの空中写真と比較して手間と時間はかかるものの、ドローンとは違って風の影響など、一刻一刻で変化する要因が少ない分、誤差も少なく知恵が詰まっているということを知った。90年に及ぶ調査は、長期に渡って行われているからこそ、過去からの多くの人々の努力や知恵によって支えられているものであり、得られたデータは、データだけを見ては伝わらない、努力と知恵の結晶であることを実感した。

日 程：2022/2/15(火)-2/17(木)

参加学生：2名

活動場所：大学院農学生命科学研究科附属演習林 生態水文学研究所赤津研究林（愛知県瀬戸市北白坂町）

備 考：附属演習林 生態水文学研究所 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/>

### A38. 日本の伝統文化である花火について知り、 花火について考える

コロナ禍のオンライン花火を考えるAチームと、アフターコロナの花火企画を考えるBチームの2チームに分かれて活動を行った。花火工場見学を通し、日本の伝統文化としての花火だけでなく、危険な事象が生じた場合、社会的責任や影響が大きい危険な火薬としての花火の側面や日本の伝統文化や職人の方々が同様に抱えているであろう花火業界の課題について学んだ。「アフターコロナに向けての花火」をテーマにこれからの花火業界への提案を行い、伝統文化の存続には、それを尊重する思いと経済的な健全さが必要だと分かった。

日 程：2021/7月-12月

参加学生：10名

活動場所：東京都内、山梨県笛吹市

備 考：一般社団法人 日本花火推進協力会 <https://hanabi2020.jp/>  
同会の過去に実施した事業  
<https://hanabi2020.jp/project/2019/report/>  
2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業（イノベーション型プロジェクト）  
[https://www.bunka.go.jp/shinsei\\_boshu/kobo/pdf/r1415179\\_12.pdf](https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/r1415179_12.pdf)



花火工場見学



打ち上げ場にて

### A39. 中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、 今後の中山間地域・地方創生について考えよう

北海道の鷹栖町において、中山間地域での生活を実際に体験しながら学び、地域の隠れた宝を発見し、また地域の課題を感じ、今後の中山間地域・「地方創生」のあり方を考えるプログラムであった。スノーアクティビティや農業体験、企業訪問を行い、最終日には健康科学や公衆衛生などの視点から考えた鷹栖町の課題について提案を行った。町民との交流活動・フィールドワークを通して多様な考え方や価値観に触れたことは貴重な財産となった。

日 程：2022/2/28(月)-3/4(金)

参加学生：4名

活動場所：北海道鷹栖町



鷹栖町のゆるキャラ「あったかすくん」と



スノーアクティビティ体験

## 【海外プログラム】

### B1. 中国訪問＋キャンパスツアーと学生交流

オンラインで企業や大使館など中国で働かれている日本人の方々の講演や質疑応答によって、中国人と日本人の違いについて知識を得るなかで、共通点もあり、当然違いもあることを感じた。清華大学の学生達とお互いの学生生活や文化について質問し合い、復旦大学や北京大学の学生とは政治問題などの話題にも踏み込んだ交流会も行った。3回の学生交流プログラムを通して等身大の中国の大学生像を得ることができたように感じた。将来中国の大学院に進学し中国で働いてみたいと考えていたので、本プログラムを通してその気持ちは一層強くなった。

日 程：2022/3/9(水)-3/18(金)

参加学生：16名

活動場所：オンライン

備 考：東大北京校友会 <http://www.todai-alumni.jp/dousoukai/index.html>  
上海銀杏会 <http://ichokai.icoc.cc/>

### B3. シンガポールでビジネスを学んでみよう

Zoomを用いたオンライン形式で講義を受けたあと、質疑応答が行われた。ゲストスピーカーはシンガポールや一時的に別の国に出張されている方と様々であった。シンガポール国立大学の学生の勉強への意欲とストイックに実践していることを、現地大学職員から教えてもらったことが、自らの勉強へのモチベーションの向上に繋がった。ビジネスや外交交渉などで彼らと「戦う」以前に、同じレベルで議論ができる段階にないと話にならないが、そこに危機感を覚えるほどの意識の差を感じた。必要な勉強には打ち込む実践力が必要であることを具体的に認識できた絶好の機会であった。

日 程：2022/2/27(日)-3/5(土)

参加学生：6名

活動場所：オンライン

備 考：淡星会 <https://sgp-tanseikai.com/>

### B5. スリランカでSDGsフィールドワーク体験 “SDGs Field work experience in Sri Lanka”

プログラム開始前の勉強会で、スリランカが農村振興を通じて独自の発展をする過程について学んだあと、スリランカの各主要大学で教鞭を取る本学卒業生の方々から灌漑システムや紅茶、パームオイル産業について講義を受けた。JICAスリランカ事務所長からは、国際支援の実態とプロジェクト前に十分リサーチを行い現地の負担にならないように活動をしていることなどを教えていただいた。ご厚意で行っていただいた家庭訪問では、家庭料理や家の様子など現地の暮らしやご家族を紹介していただきスリランカが身近に感じられた。

日 程：2021/8/23(月)-8/27(金)

参加学生：6名

活動場所：オンライン

備 考：東京大学スリランカ事務所  
<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/swasia/en/srilanka/about/index.html>



講演者と参加学生

## B6. TOPS2021 (Tokyo Oxford Programme of Summer 2021)

約1か月のプログラムで、はじめの2週間は講義中心、次の2週間は行事中心に構成されていた。講義は3時間×3日間で1コマとしてカウントされており法学2コマ、西洋古典学2コマを履修することが推奨されていた。授業はリアルタイム配信で行われ、先生方が学生の質問に丁寧に対応してくださった。行事としては、オックスフォードに在籍している学生との交流やチュートリアル、プレゼンテーション大会などがあり、プログラム期間を通じてスペシャル・レクチャーやロンドン案内など様々な企画を楽しむことができた。

日 程：2021/8/1(日)-8/29(日)  
参加学生：3名  
活動場所：オンライン  
備 考：オックスフォード大学 ベイリオル・コレッジ [www.balliol.ox.ac.uk](http://www.balliol.ox.ac.uk)  
Mayer Brown <https://www.mayerbrown.com/>  
PwC <https://www.pwc.co.uk/>

## B7. 英国ロンドン、海外で働くとは

企業や国際機関、官公庁での具体的な仕事内容や海外勤務のエピソードなどについてお話をお聞きし、質疑応答で理解を深めていった。その中でイギリスでのワークライフバランス、社会や組織の性質について、特に日本との違いについて知ることができた。またオックスフォード、ケンブリッジの学生との交流会では海外におけるキャリアについて、イギリスで学ぶ学生の目線から話を聞くことができた。参加学生同士の学部を超えた繋がりやイギリスで活躍されている先輩方との交流は大変価値のあるものとなった。

日 程：2022/2/21(月)-2/25(金)  
参加学生：12名  
活動場所：オンライン  
備 考：英国赤門学友会 <http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>

## B9. スウェーデン王立工科大学 (KTH) での体験活動 日本語授業サポートと企業訪問

スウェーデンの文化についてはほとんど知らなかったが、気候や歴史も踏まえた食文化をオンラインで学ぶことができた。日本とスウェーデンは遠く離れている為共通点があるようには思えなかったが、共通点も見つけ非常に興味深かった。日本語を学んでいるKTH(スウェーデン王立工科大学)の学生とは、日本語の些細な疑問や日本文化について話す機会も多かった。日本語を使う中でのわずかな疑問を改めて見つめ直す良い機会だった。また、独特な風習(Spexと呼ばれるコメディの大会など)をいろいろ知ることができたことも興味深かった。

日 程：2021/11/25(木)-2022/2/24(木)  
参加学生：5名  
活動場所：オンライン  
備 考：工学系研究科日本語教育部門 <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>  
スウェーデン王立工科大学 <http://www.kth.se/>  
在日本スウェーデン大使館 <http://www.swedenabroad.com/ja-JP/Embassies/Tokyo/>  
ノーベル博物館 <http://www.nobelmuseum.se/>  
JETRO(スウェーデン) <https://www.jetro.go.jp/world/europe/se/>



## B10. サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動

サウジアラビアの女子学生に向けて、学問、生活、伝統的な日本の文化（武道や華道、着物等）から現代的な日本の文化（アニメや漫画等）についてたくさんの写真を用いた資料を作成し紹介した。ディスカッションを通じ交流を持ったことで、プログラム参加前はサウジアラビアという国に関する知識が少なかったが、女子大学生としての共通点（大学での学びや、将来への考え方等）を見つけることができ、以前より親近感を覚えた。日本の文化はサウジアラビアという遠い国にも魅力あるものとして伝わっていることを誇らしく思った。

日 程：2022/3月

参加学生：5名

活動場所：オンライン

備 考：プリンセス・ヌーラ大学 <http://www.pnu.edu.sa/en/Pages/Home.aspx>

太陽光寄付講座（GS+I） <http://www.gsi.u-tokyo.ac.jp/>

## B11. アラブ首長国連邦の「いま」

カリファ科学技術大学（KUST）とのオンライン交流を通じて、それぞれの国の文化や自分自身の興味について発表し、UAEの政治・宗教・スポーツなどクイズ形式で進む解説を聞きながら、UAEで学んでいる同年代の学生が何を考えて何を感じているかを知ることができた。また、現地で活躍されているOB・OGとの交流を通じて、日本人がUAEで働くことの意味と意義を実感することができた。

日 程：2022/3/8(火)、3/11(金)

参加学生：6名

活動場所：オンライン

備 考：東京大学GS+I総括寄付講座 <http://www.gsi.u-tokyo.ac.jp/>

Khalifa University <http://www.ku.ac.ae/>

IRENA <http://www.irena.org/>

## B13. GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT

このプログラムでは「How to reduce the usage of single-use plastic」という題名でプラスチックの廃棄量を金融政策とテレビメディアの報道によって変化させるモデルを考えた。プラスチックの使用から廃棄までの関係図からシステムのパラメトリックモデルを考え、システムの中で銀行とメディアの影響に注目し、シミュレーションを行った。入力変数や関数を少しずつ調整することで問題の解決の糸口を探り、より情報を集めていくことで精度の高いモデルができるということがわかった。

日 程：2021/8/2(月)、8/6(金)、8/19(木)

参加学生：3名

活動場所：オンライン

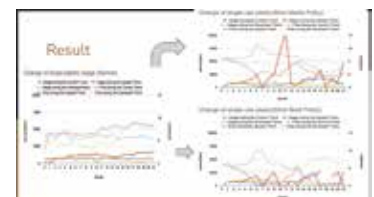
備 考：GLOBAL TEAMWORK LAB

<http://gtl.mit.edu/>

<http://gtl.k.u-tokyo.ac.jp/>



プレゼンテーション資料1



プレゼンテーション資料2

## B14. アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう

アメリカのシカゴとワシントンD.C.で活躍されているOB・OGの方々から講義を受け質疑応答を行った。今回は参加者が少なかったためプログラム自体もフレキシブルなものとなり質問もしやすく将来の仕事について考える良い機会となった。プログラムを通して将来へのビジョンがはっきりし選択肢が想像以上に世の中にはあることを知ることができた。アメリカで実際に働いている方々から、多くの分野に関心を持ち、勉強することが将来の選択に繋がるということをお聞きし、自分のステップアップのための転職を考えることの重要性も知った。

日 程：2021/8/23(月)-8/27(金)

参加学生：2名

活動場所：オンライン

備 考：シカゴ赤門会・さつき会アメリカ

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>



シカゴプログラム



ワシントンDCプログラム

## B16. 米国ニューヨーク・ソルトレイクシティ近郊における国際交流・研究体験活動

プログラムは、オンラインで各講師の先生方のお話を聞き、質疑応答をする形で行われた。先生方は、ユタ大学で研究をされている方やニューヨークで臨床医として活躍されている方、日系社会に関わる方々など、多様であった。医療関係の方のお話は自分のキャリアの可能性を広げる意味でとても参考になり、もしアメリカに行って働きたければ自分が何をすべきかという点がより明確になった。他の先生方のお話も、アメリカにおける生活や人間関係などを考えるうえで大変役に立つ内容であった。

日 程：2022/3/24(木)-3/30(水)

参加学生：3名

活動場所：オンライン

備 考：東京大学ニューヨークオフィス <https://utokyony.adm.u-tokyo.ac.jp/japanese.html>

ブルックヘブン国立研究所 <https://www.bnl.gov/world/>

ユタ大学のWEBサイト <https://www.utah.edu/>

テレスコープアレイ実験のWEBサイト (日本) <http://www-ta.icrr.u-tokyo.ac.jp/>  
(ユタ大学) <http://www.telescopearray.org/>

デルタ市の博物館 Great Basin Museum <http://greatbasinmuseum.com/>

Topaz Museum <https://topazmuseum.org/>

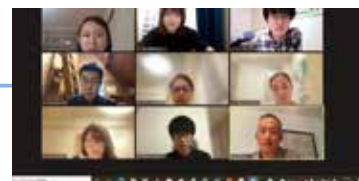
## B17. グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方

プログラムは、ニューヨークで働く東大OB・OGにご登壇いただき、「キャリア選択のきっかけ」「NYで働くこととなった経緯」「NYで働く生き様」など様々な観点からお話を伺い、英語の発音ワークショップや、英文レジメのワークショップ、イチオー会への参加など、豊富な体験ができた。多くのスピーカーの方が、やりたいことをやって欲しいと述べられていたのが印象的で、自己分析をし、自分が輝いていた時を知り、将来の理想像を描き、そこに至るために、正しいと思った道を進むことが重要であることを学ぶことができた。

日 程：2021/9/8(水)-9/14(火)

参加学生：8名

活動場所：オンライン



プログラムの様子

## B18. 日系カナダ人のアイデンティティと文化を探る

---

1877年の移民より始まった日系コミュニティの進化の歴史と、現在多くの日系カナダ人が住むカナダ西部の日系コミュニティの現在を知り、日系カナダ人の移民に関する幅広い知識を得ることができた。バンクーバー日系文化センター博物館のライブバーチャルツアーでは解説を聞きながら展示品を鑑賞し、カナダの大学や機関、教育関係者から日系人の歴史や活動、また戦時中の日系カナダ人の抑留の様子をお聞きした。またUTokyo同窓会交流ディスカッションではカナダ赤門会西地区のメンバーと交流を深めることができた。

日 程：2021/8/26(木)、9/2(木)、9/9(木)、9/16(木)

参加学生：1名

活動場所：オンライン

備 考：Nikkei Place <https://centre.nikkeiplace.org>

Calgary Nikkei Cultural Centre <https://www.calgaryjca.com>

University of British Columbia Centre of Japanese Research <https://cjr.iar.ubc.ca>

University of Alberta Prince Takamodo Japan Centre for Teaching & Research

<https://www.ualberta.ca/prince-takamodo-japan-centre>

Japanese Canadian History Resources <https://japanesecanadianhistory.net/other-resources/>

## 【研究室プログラム】

### C3. 農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定

---

農産物や農地の放射性物質情報について、実際の測定手法を体験してデータが得られるまでの過程を体験した。自宅のプランターの土や、神奈川県海岸の砂、スーパーで売られている野菜などを使って放射性物質モニタリング調査を行った。今回の測定では原発事故由来のセシウムによる影響はほとんど見られなかったが、食品への移行は別に考える必要があるとの認識に至った。基準値の科学的な合理性や社会的合意が注目される一方、正確な測定が食品の安全と安心の基礎になっていることを感じる事ができた。

日 程：2021/8/26(木)、8/30(月)

参加学生：1名

活動場所：本郷キャンパス 農学部2号館

備 考：農学部の活動についての本 <https://www.nhk-book.co.jp/shop/main.jsp?trxID=C5010101&webCode=00912082013>

農学部の復興支援 <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/index.html>

農学部の事故後1年半をまとめた参考書

- Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident

<https://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54328-2>

- Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident The first Three Years (2016)

<https://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-55828-6>

- Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident After 7 Years (2019)

<https://link.springer.com/book/10.1007/978-981-13-3218-0>

### C4. 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

---

面白いと感じた点は、幸せについて実際に研究をしている方と研究についての議論を行えた経験である。先生に研究の進め方などについてアドバイスを受けたが、その研究内容のフィードバックや洞察力は非常に奥深かった。このプログラムを通じて、心や神経といったものが、今自分が専攻をしている学問を用いて分析できることが理解できた。そして、心だけではなく色々な領域までもが専攻と繋がっていることを知った。今後はいろいろなものに応用して分析していきたい。

日 程：2021/8月-2022/3月

参加学生：6名

活動場所：基本オンライン、状況および活動 内容に応じて対面（本郷キャンパス教育学部棟）

備 考：大学院教育学研究科 身体教育学コース <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tkweb/>

### C5. 生命科学分野の研究領域の可視化ツール入門

---

生命科学の研究領域を文献・特許データを用いて自ら関心のある研究分野について、データベースを用いた俯瞰作業を体験した。私が興味を持っていた「クライオ電子顕微鏡」の分野にはどのような研究テーマがあるのか、どの国（組織）が著名なのか、今盛んな研究テーマはなにかを知ることができた。また、VOS ViewerやCitNetExplorerの使い方を身につけたことは、まだ知らない研究分野を俯瞰するうえで重要な役割を果たす大きな収穫であり、このプログラムへの参加は、研究テーマを決めるうえで役立つものになった。

日 程：2021/10/27(水)-12/15(水)

参加学生：1名

活動場所：オンライン

備 考：大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻バイオイノベーション政策分野

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/bioipcourse/learning/index.html#taiken>

## C6. 環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ

---

酸化ジルコニウムの微粒子を流通式の超臨界水熱合成装置を用いて合成する実験と、流通式の反応器を用いて、4-ヒドロキシ安息香酸をフェノールと二酸化炭素に分解する実験を行った。各実験では試料の計量と溶液の調製を行い、準備した溶液を大学院学生とともに装置にセットし、装置の電源を入れ、ポンプを用いてチューブ内を液体で満たすといった準備を行った。実験では温度や圧力を適宜調節しながら超臨界水ができるのを待ち、水が十分高温・高圧に達した時に試料を装置に供給し、反応させた。柏キャンパスを知る機会となり良かった。

日 程：2021/11/21(日)-11/28(日)

参加学生：2名

活動場所：新領域環境棟（柏キャンパス）

備 考：大学院新領域創成科学研究科 環境システム学専攻 大島・秋月研究室

<http://www.oshimalab.k.u-tokyo.ac.jp>

## C7. みんなで翻刻ソン

---

地震に関連する史料解読プロジェクトとして開始した「みんなで翻刻」で歴史資料の解読を行った。史料の解読という本来であれば個人で行う作業をオンライン上の「みんなで翻刻」で多くの人と共有する体験をした。補助機能であるAIを使って解読が難しい崩し字を解読し、文脈に沿って解釈することを学んだ。その中で解読はAIだけではできず人の手が必要だということがわかり、より多くの人に「みんなで翻刻ソン」に参加してもらうにはどうすればよいかを考えた。様々な資料を見る中で地図や火災の経過が詳細に書かれていることに驚いた。

日 程：2021/9/1(水)

参加学生：3名

活動場所：オンライン

備 考：みんなで翻刻 <https://honkoku.org/>

## C8. DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan) 2021 夏季プログラム

---

障害や病気を持つ若者の高等教育への進学と就労を支援することを通じ、その中から未来のリーダーを育成するプロジェクト、「DO-IT」の夏季プログラムに大学生チューターという立場で参加した。熊谷晋一郎先生の「自立と依存を考える」セッションでは障害とは、自立とは、差別とは、という問いを障害を持つスカラー達と共に考えた。障害を持つ人々への合理的配慮について、またどのような技術が自立を支えられるのかについて知った。発話障害を持つスカラーとはコミュニケーション方法を学んだ後には会話を楽しむことができた。

日 程：2021/8/9(月)-8/12(木)

参加学生：1名

活動場所：オンライン

備 考：<https://doit-japan.org/>

### Ⅲ 体験活動プログラム活動報告会

2022年3月7日（月）、本郷キャンパス鉄門記念講堂にて、体験活動プログラム報告会を開催した。報告会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場での出席人数を限定し、Zoomウェビナーによる配信を行った。プログラムに参加した学生、学生を受け入れた学外関係者及び本学教職員等約160名が参加した。

学生スタッフ2名の進行で開会した。まず藤井輝夫総長より、体験活動は多様な人々と出会い、未知なるものを知ろうとすることで、知の探究を進める力を身に付ける実践の場であること、そして多くの学生に貴重な経験を積む機会を与えてくださった受入関係者への謝辞が述べられた。



司会担当の学生スタッフ



藤井総長の挨拶

続いて、体験活動プログラムの発展に顕著な功績のあった団体に感謝の意を表し功績をたたえる「特別功労賞」の授与が行なわれ、受賞された西之表市様、サステナジー株式会社様、アラブ首長国連邦赤門会様へ記念楯が贈られた。



特別功労賞授与の様子



特別功労賞授与の様子

続いて、5つのプログラム（「笑う東大×学ぶ吉本SDGs人材交換留学」、「ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」で水環境と生態系保全の未来を考える」、「グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方」、「スリランカでSDGsフィールドワーク体験”SDGs Field work experience in Sri Lanka”」、「農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定」）に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に活かしたい経験等について報告した。

学生の報告終了後、学外機関からは、吉本興業ホールディングス株式会社代表取締役社長岡本昭彦氏、中海・宍道湖・大山圏域市長会事務局の松本謙次氏、NY銀杏会の濱田稷太郎氏から学生を受け入れた感想などを話された。



「笑う東大×学ぶ吉本SDGs人材交換留学」



吉本興業ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 岡本昭彦氏



「ラムサール条約湿地「宍道（しんじ）湖（こ）」・「中海（なかうみ）」で水環境と生態系保全の未来を考える」



「グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方」



「スリランカでSDGsフィールドワーク体験  
“SDGs Field work experience in Sri Lanka”」



「農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定」



農学生命科学研究科 田野井慶太郎教授

最後に津田敦執行役・副学長より受入関係者への感謝の言葉が述べられ、閉会した。

今年度の報告会を実施するにあたり、4名のプログラム参加学生が当日の司会、受付及びタイムキーパーなどの役割を担い、報告会の運営に参加したことは、本プログラムにおける成果の一つとなった。



津田敦執行役・副学長の挨拶



運営に携わった学生スタッフ

# 2021年度体験活動プログラム報告会

日時：2022年3月7日（月）

15：00～17：00

場所：鉄門記念講堂（本郷キャンパス）

Online（Zoomウェビナー）

## 式 次 第

### 一．開 会

#### 一．総長挨拶

【藤井 輝夫 総長】

#### 一．特別功労賞授与

#### 一．活動報告（5プログラム）

◆笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学

◆ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」で水環境と生態系保全の未来を考える

◆グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方

◆スリランカでSDGsフィールドワーク体験

“SDGs Fieldwork experience in Sri Lanka”

◆農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定

#### 一．副学長挨拶

【津田 敦 執行役・副学長】

#### 一．閉 会

《司会》教養学部前期課程文科三類1年

工学部社会基盤学科3年



# Hands-on Activities 2021 Debriefing Meeting

Date: Monday, 7 March 2022, 15:00~

Place: Tetsumon Memorial Hall

(Hongo Campus)

Online (Zoom)

## Opening

## Message from the President

【FUJII Teruo , President】

## UTokyo Award for Outstanding Contributions to the Hands-on Activities 2021

## Presentations

- ◆Laughing Todai×Learning Yoshimoto: SDGs Human Resources Exchange Program
- ◆Feel the blessings of the Ramsar Convention Wetlands “Lake Shinji” and “Nakaumi” and create an active way of life.
- ◆How to Create a Career in the Global City of New York
- ◆SDGs Fieldwork experience in Sri Lanka
- ◆Detection and measurement of radionuclides in agricultural environmental samples

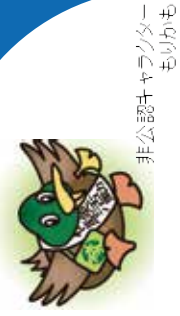
## Message from the Vice President

【TSUDA Atsushi, Vice President】

## Close

# 体験活動プログラム

## Hands-on Activities



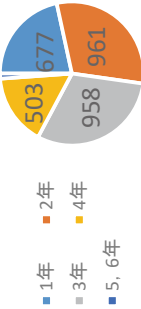
### 体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生及び大学院学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れることができる体験型教育プログラムです。

本学独自のプログラムとして、2012年度から実施しています。学びと社会を結び直すこのプログラムは、本学が目指す「共感的理解に基づいた対話を通じた信頼の構築」のひとつの実践の形であり、さまざまな体験を通じて多様な人々との出会い、未知なるものを知らうとすることで、知の探究を進める力を身に付けることができます。

フィールドは国内外問わず、内容はボランティアなどの社会貢献活動、国際交流、農林水産業や地域体験、学内研究室体験など、多岐にわたっています。

学年別参加者数 2012～2021合計



< 2021年度・プログラム一覧 >

#### 国内プログラム(全27プログラムより一部抜粋)

- ・地域包括ケア体験プログラム
- ・英・東大 x 学ぶ日本・SDGs人材交換留学
- ・JICAの国内の現場で国際協力を知る
- ・再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン
- ・中世の時代が輝く鳥根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト
- ・高核癒力化プロジェクト

#### 研究室プログラム(全6プログラムより一部抜粋)

- ・みんなで翻訳ソロン
- ・農地環境サンプリングの放射性核種の検出と測定
- ・DO-IT(Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan 2019

#### 海外プログラム(全13プログラムより一部抜粋)

- ・グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方
- ・アラブ首長国連邦の「いま」
- ・シンガポールでビジネスを学んでみよう
- ・英国ロンドン、海外で働くとは
- ・TOPS2021(Tokyo Oxford Programme of Summer 2021)
- ・サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動

※2021年度は新型コロナウイルスの影響によりオンラインプログラムとして実施。



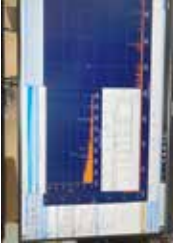
卒業生訪問(アメリカ)



就業体験(都内) 研究室体験(本郷キャンパス)



ボランティアなどの社会貢献活動(富山県)



フィールドワーク(北海道)



フィールドワーク(南伊豆)

### 参加学生の感想

「地域包括ケア」が高齢者中心に実施されているという実態を見学した。厚生労働省が推進する全世代の地域住民で行う相互ケアは全国の地方自治体で実現されるべきだと強く感じた。(地域包括ケア体験プログラム)

独学で学ぶよりも効率的な崩し字の学習ができただけでなく、技術の進歩や最新の研究状況にも触れることができました。私自身の話では、以前よりも古文書が読めるようになっただけでなく、とても嬉しかったです。(みんなで翻訳ソロン)



参加学生が活動を発表する報告会は、参加学生有志が司会やスタッフを務めます。

本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成り立っています。

東京大学本部社会連携推進課体験活動推進チーム  
 taikenkatsudou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542  
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.htm>





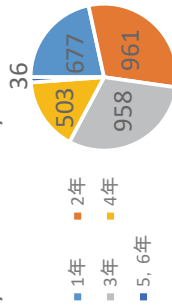
# Hands-on Activities

## What is "Hands-on Activities"?

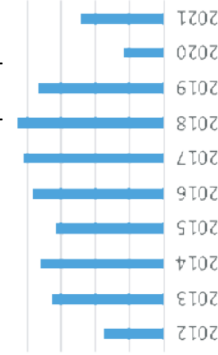
"Hands on Activities" is an experiential education program that allows undergraduate and graduate students of the University of Tokyo to experience cultures and values different from those experienced in their lives to date. This program is unique to the University and has been implemented since FY2012.

This program, which reconnects learning and society, is one practical form of the "building trust through dialogue based on empathic understanding" that the university aims to achieve. Through a variety of experiences, students will meet diverse people and acquire the ability to advance the quest for knowledge by seeking to know the unknown. The field can be domestic or international, and the content diverse, including volunteer and other social contribution activities, international exchanges, agriculture, forestry, fisheries, local community experiences, and on-campus laboratory experiences.

Number of participants by year at university 2012-21



Fluctuation in number of participants



## Selection of programs from AY2021

### Selection of the 27 domestic programs

- Community-based comprehensive care experience program
- Laughing Todai x Learning Yoshimoto - SDGs Human Resources Exchange Program
- Learn about international cooperation at JICA's domestic sites
- Internship at a renewable energy venture company
- High School Attraction Project

### Selection of the 6 Lab-based Programs

- Flip-a-thon with everyone
- DO-IT(Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan 2019

### Selection of the 13 Overseas Programs

- How to live and develop your career in the global city of New York
- The United Arab Emirates: Now
- Learn about business in Singapore.
- London, England. What it's like to work abroad
- TOPS2021 (Tokyo Oxford Programme of Summer 2021)
- International Exchange Activities at Princess Noora University, Saudi Arabia

\*For FY2021, due to the impact of the new Corona Implemented as an online program.



非公认キャリア  
モリカモ



Visiting UTokyo Alumni (USA)



Volunteer experience(Japan)



Field work experience (Hokkaido, Japan)



Work experience (in Tokyo)



Laboratory program (Hongo Campus)



Field work experience (Minamizu, Japan)

## Participants' reports

We observed the fact that "comprehensive community care" is being implemented primarily for the elderly. The Ministry of Health, Labour and Welfare promotes mutual care which all generations of residents should be involved. I strongly felt that local governments nationwide should implement measure like this. <Comprehensive community care experiment>

In addition to being able to learn broken characters more efficiently than learning by myself, I was also able to touch on the technological advances and the latest research status. For me personally, I was very happy that I became able to read ancient documents better than before. <Reprint>

The debrief sessions where participants make presentations are run by the students themselves



**Hands-on Activities is only possible with the support of the people who accept students.**

Hands-on Activities Support Team, Student Support Group, UTokyo  
 taikenkatsudou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542  
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>





2021年度 体験活動プログラム活動報告

作成	2022年12月
編集	東京大学 社会連携部 社会連携推進課 体験活動推進チーム
住所	〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
電話番号	03-5841-2541/2542
URL	<a href="https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html">https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html</a>